

「黒字亡国」から「赤字興国」へ

三國事務所代表取締役
三み國くに陽あき夫お

- * 無限に日本から買い続けるアメリカ
- * 日銀券が外へ出て行くことが大事
- * アメリカ経済が浮上できない理由
- * 円相場の行方―三つのシナリオ
- * 円高差益20兆円が内需を生む
- * ポンド高が生んだ技術革新
- * 海外へカネが出れば株は下がる
- * 技術革新は価値観で規定される
- * 債権大国日本、三つの重要ポイント
- * アメリカのカネがしだいに目減り



浅野 開会いたします。（拍手）梅雨入りと

いうことで今日も雨ですが、お帰りの頃には雨はやんでいるでしょう。今日は三國陽夫さんにおいでいただきました。野村證券で12年ほど仕事をされた後、三國事務所という格付け会社をつくられて、金融機関はじめ事業会社の有価証券報告書などをベースに、非常にユニークな格付け事業をされてこられました。

経済倶楽部は今回で4、5回目ですけれども、いつも少数意見を展開されています。前回も『強い円』で経済は成長するという演題で、これも異色の説でした。ところが強い円は続くのですけれども、経済はなかなか成長しない。これは三國さんが間違えたというより、日本が強い円を生かすしきれなかったところに問題があ

ろうかと思えます。

そのとき最後に、これで貿易収支が赤字になってきたら日本はますます良くなるというお話をされたのですが、まさにそういう時期にさしかかってきました。そのとき私が「また何年かして三國さんに、ほらみたことか、という講演をしていただくかと思っています」と言ったことになっていますが、3年ほどたちましたので、お話を伺う良いチャンスかと思えます。

三國さんの話はちょっと難しいところがあるので（笑）今日は話したいところを2割ぐらい減らし、その分、解説をゆっくりしていただきたいと願っています。それではよろしくお願います。（拍手）

三國 三國でございます。今日は少しゆっく